

荒川区が進める『MACCプロジェクト』は、荒川区の特徴である多彩な産業集積を生かした、区内企業同士の顔の見えるネットワークの形成を推進することによって、荒川区の産業振興を図るものです。

「MACC通信」では、この『MACCプロジェクト』に関わるホットな情報をお届けします。

今回は、「“新ものづくり補助金”にMACC会員企業10社が採択!」、「新たな取り組みの事例紹介」、「第10回すがもビジネスフェア“四の市”へのMACC会員企業の出展」、「初任行政研修報告」、「第2あすめし会活動報告」、「新会員紹介」、「MACC発新商品紹介」等について掲載します。

「新ものづくり補助金」にMACC会員企業10社が採択!

国が公募する、平成25年度補正予算事業「中小企業・小規模事業者ものづくり・商業・サービス革新事業」（通称：新ものづくり補助金）（補助率：3分の2 上限：1,000万円 一般型の場合）の一次公募（一次締切：平成26年3月14日 二次締切：平成26年5月14日）においてMACC会員企業10社が採択されました。

その中には、MACCコーディネータや、荒川区企業相談員とともに事業内容のブラッシュアップを重ねて採択に繋がったものもあります。

荒川区では、新ものづくり補助金だけでなく、国や都などが実施する各種事業への申請をバックアップしています。また、その前段階の「どの事業を利用するのがベストな選択か」といった相談にも、親身にお応えします。新たな挑戦を行う際は、ぜひ一度ご相談ください!

【MACC会員企業 採択者一覧（五十音順）】

(株)アポロ製作所 (西日暮里1-49-11)	最新鋭インクジェットプリンターの導入による特殊印刷技術の高度化
オリエンタルエンジニアリング(株) (西日暮里2-25-1-902)	ダイカスト金型へのBN膜(プラズマCVD法)の適用に関する研究開発
(有)ケア・プランニング (荒川4-9-11)	「転倒しない生活」を実現するサービスの開発と提供
志幸技研工業(株) (西尾久5-7-12)	LAN対応「見守りシステム」開発による売上拡大
(株)総合プラスチック (東尾久5-34-3)	炭素繊維複合材料(炭素繊維強化プラスチック、CFRP)を用いた射出成型技術の確立
(株)タカハシ (東日暮里6-3-5)	ゴムスポンジワッシャーのネック工程改善並びに検査工程の自動化によるQ・C・Dの向上
大東工業(株) (西尾久7-52-1)	石油等の燃料移送に不可欠な高効率大型ギヤポンプの生産能力強化事業
(株)トミナガ (東日暮里3-1-12)	レーザ加工機とUVプリンタを活用した立体形高度加工技術の開発
長島特殊塗料(株) (荒川2-1-5)	現行の遮熱塗料に大気汚染物質分解(空気洗浄)機能を付加する新塗料の開発
松田金型工業(株) (西尾久5-19-1)	プラスチック製高風量高静圧ターボファンの2色成形金型技術の開発

新たな取り組みの事例紹介 ショールームの開設 (株)日興エボナイト製造所



(株)日興エボナイト製造所(荒川区荒川1-38-6 代表取締役 遠藤智久氏)は、同社が手掛ける万年筆・ボールペン等の商品を扱うWEBショップ「笑暮屋(エボヤ)」(<http://eboya.net/>)の

ショールームをオープンしました。平成26年3月28日(金)のプレオープンには、多くの方が訪れました。

開設の経緯について遠藤社長に尋ねたところ「コーディネータの支援を受けながら開発し、MACC発新商品にも認定していただいている“マープルエボナイト万年筆”を軸に、WEBショップ等でBtoCの取り組みを積極的に進めてきました。これを一歩進めてお客様と実際に会って関係を築ける場を作りたい

と考えていました。そこへ、弊社隣の店舗から閉店するから使わないかとの打診があり、運命だと思い開設を決めました。また、カラーマープルエボナイトで作った万年筆やボールペンは1本ずつ模様が異なります。長くご愛用いただくためにも、ゆっくりとお茶でも飲みつつ、手に取って見比べながら、お客様が満足のいくものをお選びいただける空間にしたいと考えています。」と代表取締役 遠藤智久氏熱く語ってくれました。



現在、ショールームは、毎週水・金曜日のそれぞれ13時~18時にオープンしています。日本で唯一のエボナイト製造企業の新たな取り組みをMACCプロジェクトも応援します。

第10回すがもビジネスフェア「四の市」にMACC会員企業2社が出展

平成26年5月14日(水)巣鴨信用金庫 本店3階ホール(豊島区巣鴨2-10-2)において、巣鴨信用金庫主催「第10回すがもビジネスフェア“四の市”」が開催され、MACC会員企業2社が出展しました。

今回で10回目を迎えた“四の市”は、この日も、大変な賑わいを見せていました。

出展企業は、食料品・雑貨・衣料品・化粧品と多様で、過去にもMACC会員企業が出展しています。

今回は、MACC会員企業のうち、(株)東京ベル製作所(荒川区西尾久4-8-4 代表取締役 市村晃一氏)と(株)マツダ自転車工場(荒川区東尾久1-2-4 代表取締役 松田志行氏)が出展しました。

(株)東京ベル製作所は、ベル専門会社として各種ベルを販売。中でも力を入れていたのがMACC発新商品でもある「森の鈴(BEAR BELL)」。

この製品は山登り等で使う“熊よけベル”で、ワンタッチ操作の消音機能が特徴です。昨今の登山ブームを受け、この日も注目を集めていました。



(株)東京ベル製作所
代表取締役 市村晃一氏

今回の出展に関して市村社長は「出展したことに

よる宣伝効果は高く、会社の知名度アップに役立った」と、にこやかに語っていました。

(株)マツダ自転車工場は、変形性膝関節症の方のための自転車「優U」を出展。この症状で悩む人の興味を引きました。パンフレットを予め信用金庫から配ってもらったため、事前の問い合わせもあり、この製品を目的に来た人も多かったとのこと。



(株)マツダ自転車工場
専務取締役 松田裕道氏

会場で即売せず、後日ショールームにて、オーダーメイドの自転車を提供するという、他とは一味違った出展のスタイルでした。

会場にいた松田専務は「普段は店でお客が来るのを待っていますが、今回は積極的に宣伝することができて良かった。また、ショールームと巣鴨信用金庫は比較的近い為、改めてショールームにお越しいただくのに立地的にも好条件でした」と出展の感想を語りました。

区内のモノづくり現場で実地研修 新規採用の国家公務員100人がMACC会員企業14社を訪問

将来、国の施策の企画立案などに携わるキャリア官僚の新人研修「平成26年度初任行政研修」の現場訪問が6月24日(火)に区内企業で行われました。午前は、100人の研修参加者を激励する西川太一郎区長の講話をはじめ、区が推進するMACCプロジェクトの紹介と、個性的な中小企業戦略を語る経営者の講演が行われました。午後は、7班に分かれてMACC会員企業14社(次頁に一覧)を2社ずつ訪問し、モノづくり中小企業の現場で、熱心な研修交流が繰り広げられました。

“モノづくりのまち・荒川”が研修の場

「初任行政研修」は、新規採用された国家公務員のうち、将来、各府省で政策の企画立案等に従事することが想定される職員を対象に人事院が毎年実施している、キャリア官僚の新人教育です。研修では、「現場を知ることの重要性を学び、当面する諸課題について認識を深め、行政の役割・あり方について考える」目的で、中小企業の訪問が実施されています。昨年に続き区内の中小企業を訪問先として実施し、「初任行政研修」対象者のうち、100人が参加しました。

こころざし 「志を持つことが大事」と激励

サンパール荒川で開かれた全体集会の冒頭、東京23区の特別区長会会長でもある西川太一郎区長が「これから国家経営という重要な仕事に就くことになるが、何よりも大事なものは国民の幸せを築く志を持つこと。世界を見る広い視野と足元を見据える思考のバランスが必要。現況の変革期にあっては、地域社会の課題に立ち向かい、産業の最前線にいる中小・零細企業の生の声を聴き、変化を読み取ることも欠かせない。健康に留意し、若いときから国を動かす気概を持って、社会に貢献する人材になってほしい」と励ましました。



区長の講話に耳を傾ける研修員

地域産業と企業の戦略を紹介

基調講演では、区が地域産業の活性化と中小企業振興施策の一つとして推進しているMACCプロジェクトについて、豊泉シニアコーディネータが概要を説明。次いで、若手経営者らによる分科会「あすめし会」の代表幹事を務める(株)日興エポナイト製造所の遠藤智久代表取締役が「産・学・公・金の連携を進めることで、企業間のネットワークが構築され、新製品開発や広域的な事業展開が促進された。苦境に立つ中小企業にとって、ご縁(連携)とスピード感をもったタイムリーな支援が有効」と公的支援の有用性をアピール。



講演の様子

(遠藤氏=左、井上氏=右)

また、荒川区工業団体連合会会長でもある大東工業(株)の井上浩代表取締役は「当社が創業79年の社歴を積み上げてこられたのは、他社にない技術を持ち、自社ブランド製品を確立した経営を続けているため。製造業の中には、下請けではなく、自社技術で自立している中小企業も少なくない。その背景には、顧客を大切に思い、顧客ニーズに誠心誠意で応える国民性にある。この徹底した顧客主義こそ、日本の技術力を支えている」と自立型中小企業に共通する企業風土を披露しました。

研修員と訪問先企業経営者が熱っぽく意見交換

研修員の企業訪問では、それぞれの工場見学と、経営者や技術者との意見交換が活発に行われました。訪問先の(株)ムラマツ車輛の山田光男代表取締

役は「中小企業はチャレンジしなければ何も生まれない」、精電舎電子工業(株)の松岸則彰代表取締役社長は「日本に育ったモノづくり技術を残さないと日本の産業はなくなる」などと訴え、研修員からは「百聞は一見にしかず」の共通した反応があり、「中小企業が必死に技術を継承し、産業を支えている事例を垣間見た」「町工場の製品が国民生活や産業に直結していると実感した」「実態を直視し、中小企業が円滑に仕事できることを念頭に、公務員としての仕事に当たる」などの声が上がっていました。



企業訪問の様子
(株ムラマツ車輛=上、精電舎電子工業株=下)



訪問先企業一覧

(ご協力ありがとうございました。) (50音順)

企業名	住所	企業名	住所
石川金網(株)	荒川5-2-6	(株)東京ベル製作所	西尾久4-8-4
(株)東風谷製作所	東尾久2-34-15	(株)トネ製作所	町屋8-13-6
精電舎電子工業(株)	西日暮里2-2-17	(株)トミナガ	東日暮里3-1-12
壮光舎印刷(株)	東日暮里6-20-9	(株)日興エポナイト製造所	荒川1-38-6
太陽興業(株)	西日暮里6-63-4	松田金型工業(株)	西尾久5-19-1
大東工業(株)	西尾久7-52-1	(株)マツダ自転車工場	東尾久1-2-4
(有)中央バフ製作所	町屋1-28-14	(株)ムラマツ車輛	南千住2-26-9

第2あすめし会活動報告 (4月-5月定例会)

4月定例会「我が社の弱み・脅威の克服法(1)」

平成26年4月18日(金)17時から産業経済部研修室にて第2あすめし会(ニアス会)4月定例会が行われました。

今回はトミー塾長から事前に「我が社の弱み・脅威の克服法」がアサインメントとして与えられ、発表前に各自のプレゼン資料を塾長に提出し、数回の添削を経ての発表です。当日は荒川区からも勝田経営支援課長が出席するなど15名が出席し、4名の会員が発表しました。発表者は、他の会員・オブザーバー会員それぞれから多くの指摘を受けながら、持ち時間をオーバーして、活発に意見を交わしました。最後は、トミー塾長が補足の講義を



行いました。その後の交流会でもさらに盛り上がる定例会となりました。

5月定例会「我が社の弱み・脅威の克服法(2)」

平成26年5月16日(金)16時から産業経済部研修室にて第2あすめし会5月定例会が行われました。

当日は、11名が参加し、4月定例会に引き続き後半の3名による発表を行いました。発表を通じて、「現状調査 分析 対策 実行計画」のステップを踏むことを学び、経営計画作成に一步近づいた形となりました。

最後は、トミー塾長から以下の7点を伝え、2回にわたる発表会は終了となりました。



- 1 自社の将来を考えることが大切。日常のオペレーションに追われても少し時間を確保すべき
- 2 企業の成長性の重要性を再認識することで、失われた25年からの脱却に繋がる
- 3 事業の継続のためには、顧客（＝ファン）の増加が必須。特に、ロイヤルカスタマーの増加を目指すことが重要
- 4 最初の顧客でもある社員の待遇改善は重要
- 5 企業のゴーイングコンサーンには企業・事業・商品・人材のライフサイクルを念頭に置くことが必要
- 6 基礎経営力とは 経営計画書、新事業戦略・新商品戦略、経営革新戦略を作れること
- 7 経営革新には、人、モノ・設備、カネ、IT それぞれに関する課題と対策に加え、実行力（即断力、即行動力、挑戦力） 忍耐力（あきらめない、体力、精神力、意欲） 人間力（傾聴、笑顔、素直な心、信じる力）が必要

MACCプロジェクト新会員紹介！！

このコーナーでは、新たにMACC会員となられた企業を紹介していきます。今後の展望やMACCプロジェクトに期待することなどを伺ってみました。

さらに元気な企業となって、魅力ある新商品・新技術開発を目指して共に頑張ってください。

✦ トーコードサービス(株) ✦

(東日暮里6-56-6 <http://www.ad-house.net/>)

・平成26年1月入会 ・創業 昭和62年 ・資本金 1,000万円

トーコードサービス(株)は、東京アドハウスというブランドを設立し、「お客様の個々のテーマに合わせて、メディア戦略を的確にアドバイスする」という理念の下、販売促進ツール全般の企画制作、webサイトの企画・製作・管理、デザイン業務等の幅広い販売促進業務を、企画から実行までワンストップでサポートしています。

今後の展望として高橋社長は、「時流の変化に柔軟に対応してお客様の魅力を伝え、ブランド作りをデザインを通じて応援することで、お客様の成長に繋げていきます。また、“あすめし会”・“第2あすめし会”双方に参加して勉強中の後継者には、数年以内に経営を引き継ぐ予定です。」と述べました。

また、MACCプロジェクトには「自分たちでは気づけない改善すべき点、良い点を一緒に見出してもらい、今後の当社の軸になる“強み”を作っていきたい」と期待を寄せています。



代表取締役 高橋 照治 氏 = 左
河内 美由紀 氏 (後継者) = 右

第17回 中小企業による国内最大級のトレードショー

産業交流展2014 出展申込受付中！

中小企業の優れた技術や製品を一堂に展示し、販路拡大、企業間連携の実現、情報収集・交換などのビジネスチャンスを提供する国内最大級の見本市です。

幅広い業種から決定権者が多く来場する上、商談を促進するための様々なマッチングサポートが用意されています。締切日が迫っておりますので、ご興味のある方は下記URLのリンク先からお早めにお申込みください。

日 時：平成26年11月19日(水)～11月21日(金) 10：00-18：00 (最終日のみ17:00終了)

場 所：東京ビッグサイト 東5・6ホール

出展対象者：情報、環境、医療・福祉、機械・金属のいずれかの分野に属する中小企業・団体など

出 展 料：54,000円(税込)/1小間(9㎡)

申込締切日：平成26年7月31日(木)

お申込み・詳細のご確認は <http://www.sangyo-koryuten.jp/> からお願いします。

MACCプロジェクト発 新商品紹介！！

このコーナーでは、MACC発新商品を紹介していきます。今回は、昨年度から販売している商品のうち、(株)アートランドが開発した2つの新商品を取り上げます。また、その商品に対する経営者の想いをそれぞれ伺ってみました。

手元供養 綾® (株)アートランド)



【製品紹介】

(株)アートランドの林社長からMACCコーディネータに「自社技術を生かせる新商品開発」をしたいとの相談があり、荒川区高度特定分野登録専門家であるデザイナーの野口英明氏を含めた3者で検討・精査を重ねることにより開発されました。

「大切な人をいつも身近で供養したい」という想いを実現するために、遺骨を納める手元供養の商品です。供養する方の様々な想いや価値観を踏まえ、数種類の形状を用意しています。

(株)アートランドの特許技術である「手鑄造製造法」による鏡面仕上げの凸模様技術を生かした日本独自の伝統技法で作る匠の技と、洗練されたデザインが合わさり、他にはない製品に仕上がっています。

【林社長より】

宗教色をなくし、純粹に供養する心に応えるため、幅広く受け入れられるデザインをイメージし、複数種類の販売をしております。お名前、戒名、家紋等、お客様の要望によりカスタマイズも対応させていただきます。

AQUATIC (株)アートランド)

～海に思いを馳せた 三つ足錫製タンブラー～



【製品紹介】

(株)アートランドの特許技術である「手鑄造製造法」による凸模様技術を活かす新製品の開発を、林社長とデザイナーの中村哲氏及びMACCコーディネータの3者で検討し、試作・改良を重ね製品化しました。

平面は錫器を鏡面に磨くことによりシャープな金属の輝きを出し、凸模様は丸みを持たせるなど、コントラストを利用したデザインにより、既存商品との差別化を図っています。

また、外側に漆を塗り、錫の輝きと漆の落ち着いた風合いを持たせた商品を新たにラインナップするなど、今後の展開が期待されます。

【林社長より】

見た目が涼しげで、錫の殺菌作用により飲み物をまるやかにし、より美味しく感じられる錫製のタンブラーです。銀のように美しく磨かれたシャープな仕上げに、丸みあるフォルムのコントラストがモダンでユニークな存在感を与えたいと思います。ぜひ、弊社のネットショップをご覧ください。

【(株)アートランド】

住所：東日暮里2-7-1 TEL：03-3806-8846

ネットショップ「Etena Shop」：<http://www.eten-shop.com/>

「手元供養 綾®」はネットショップでは販売しておりません。お電話にてお問い合わせください。

連載～その11～



牛山博文の！ 毛～ひと工夫！

MACCプロジェクトでは4名のコーディネータによる、きめ細かい企業支援を行っています。

このコーナーでは、牛山コーディネータによる生産管理の事例やMACCコーディネータとしての活動報告等を、わかりやすく連載で皆様にお伝えしていきます。



MACCコーディネータ

早稲田大学ビジネススクール招聘研究員

牛山博文

デザイン思考法

最近ものづくりの世界のあちこちで「これからはデザイン思考でものづくりをするべきだ!」とか「従来の思考ではなくデザイン思考が創造には必要だ!」といった言葉を見聞きします。なんとなく「新しいことをするには従来の考え方じゃだめだ!」・・・みたいな雰囲気文脈で使われることが多いような気がします。どうやら新しいビジネスモデルや新製品・新技術開発を行う上で必要な“考え方”のようです。今回は「**デザイン思考法**」について考えてみたいと思います。

そもそもデザイン思考とはいったいどういうことなのでしょう?具体的にどのような思考がデザイン思考なのか見当がつかない人が多いのではないかと思います。

ウィキペディアで調べてみると【**デザイン思考 (Design Thinking)**とは、人間中心デザインに基づいたイノベーションを起こすための、主として非デザイナーを対象とした発想法である。目的の1つとして、デザイナーの発想法やツールを誰でも使えるようにすることで、幅広い問題解決を可能にすることがあげられる。ここで言及されるデザインとは、見た目の色合いといった表現に限定されるものではなく、現状をよりよいものに変えていくという広義の意味でのデザインである】とされています。

私は早稲田大学ビジネススクールの研究会で「システム創造思考法」を研究しています。「デザイン思考」といっても一つの決まった概念があるわけではなさそうですので、システム創造思考法の視点から早稲田流「デザイン思考」を紹介いたします。

○システム創造思考法とは

早稲田大学のシステム創造思考法の説明を簡単にしておきましょう。この思考法の源流は1960年代に早稲田ビジネススクールの前身である早稲田大学生産システム研究所が米国のナドラー博士が提唱した「ワークデザイン技法」を国内企業に紹介したことに始まります。

ワークデザイン(システムデザイン)技法はウィスコンシン大学教授(後に南カリフォルニア大学教授)のジェラルド・ナドラー博士によって1959年に発表された問題解決技法です。日本における普及活動は、1963年にナドラー博士が早稲田大学に交換教授として来日され、自ら指導されたのが始まりです。その後、早稲田大学において研究が続けられ、現在では、システム創造思考法という呼称で普及活動が続けられています。

ナドラー博士は、自らの考え方を当初、ワークデザインと称していましたが、その後、IDEALS CONCEPT・PTR(Purpose Target Results Approach)・PTE(Planning and Design Approach)、ブレイクスルー思考、多重式思考法などと呼称を変更しています。しかし、基本的な考え方は変わってはいません。ただ、対象範囲が工業技術的なシステムから社会システムのようなものに拡大されてきています。(サイバーワークデザイン<http://homepage1.nifty.com/matufuji/gaiyou.htm>より抜粋)

ワークデザインがベースになっているシステム創造思考法はデザイン思考のひとつの解であると考えても良いでしょう。考え方の詳細は後述しますが、世の中に「デザイン思考」が必要になってきたと思われる理由について考えてみましょう。(以下次号)

MACCコーディネーター TOMMYの部屋 VOL.28

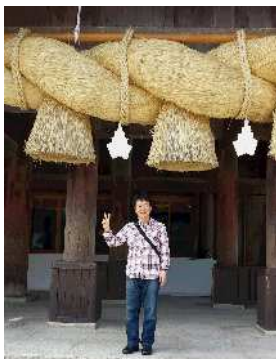


「荒川出雲物語」



MACCシニアコーディネーター 豊泉光男

今年の5月、トミーは誕生日を前に島根県の出雲の地に来ていた。現役の社長時代は頻繁に全国へ足を運んだが不思議と初めての訪問であった。ご縁がなかったのではなく、むしろ、身近過ぎたと言える。一番出世の元部下は島根、五番出世の元部下はお隣鳥取の出身であった。MACCに就任し、出雲の企業や産業とのご縁が生まれ、今回の訪問を思い立った。



ジェット機のタラップを降りると「出雲縁結び空港」と書かれた大きな文字に導かれ引き込まれる。出迎えの空港からして「縁結び」とは、期待が高まる。出雲大社は「古事記」に登場する神話の世界であるが、主神は大国主命(オオクニヌシノミコト)であり須佐之男命(スサノオノミコト)の子孫とされている。それに対し伊勢神宮の主神は天照大神(アマテラスオオミカミ)で須佐之男命の姉にあたとされる。日本の八百万の神々の話が地域の活力の源泉として今でも根付いており、興味深い。

最初に目についたのは、松江市内を歩くとそこかしこに出雲の不思議な魅力に惹かれて観光にやってきた人達がいることだ。出雲になぜこんなに多くの観光客が訪れるのであろうか。興味がそそられる。

市内を散策すると、ミシン屋さんが何件もあることにも気づいた。趣はレトロではあるもののしっかりした小綺麗な店構え、看板もショーウィンドウも新しくお洒落な雰囲気だ。近くの商店街を見回すとどの店も営業しており、シャッターを下ろしたお店は見かけない。商店街通りは車の心配なしにぶらりと歩くことができる。足元の通路をよく見ると石畳と綺麗なタイルが敷き詰められている。何か安心感と心地よさが伝わってくる。

ぶらりの途中、不思議な看板を見つけ、お店に引き込まれた。「あの一、日本ぜんざい学会ってなんですか?」とトミーは切り出した。「これは街おこしで作った名物なんですよ。詳しくはこちらをご覧ください。」と指をさされた。ルーツは江戸時代に遡るらしい。その歴史のひとつを現在の街おこしに見事に活用している。因みに東京のぜんざいとは異なり汁が多くお汁粉に近いが小豆の美味しさとお

餅が相まって忘れられない味であった。出雲の食べ物の名物と言えば、出雲そばや、トビウオのすり身で作った香ばしい竹輪「あご野焼」は代表格であり、地域の人々に長く愛されている。

次に気づいたのは、神話のご縁の歴史を現代の街おこしに生かしている事だ。ここには出雲大社だけでなく、熊野、須佐、須我、三保、八重垣と多くの神社の不思議なご利益と古来のイベントが観光資源として息づいている。中でも体験工房は興味深く、勾玉作りは3時間かかるが、自分だけのお守りが作れ満足感は大きい。さらに、参加費は1000円と何とお財布に優しいことか。続いては八重垣神社の神事である。須佐之命の妻、稲田姫にちなみ縁結びの神が境内の池で行う良縁占いの神事は現代の若者にも大いに受け入れられ、列が途切れる事はない。勿論、トミーも試みた。結果は吉とでた。



自分だけのお守りを作り、大満足のトミー

また、有名な美肌湯の玉造温泉は1300年の歴史がある。ここの温泉は商品化されて、温泉ミスト、ボディローション、ハンドクリーム、石鹸等美肌効能で多くのヒット商品を生み出している。地域の資源を使った新商品が地域活性化に一役買っている。

最後は、出雲のモノづくり企業グループのINGの話。出雲のモノづくり企業が今、熱い。勉強会で知りあった企業10社が核となって、ともにモノづくり企業の活性化運動として、5Sならぬ3S普及研究会を立ち上げた。出雲は飲食業・商業・サービス業・行政に続いて、今度はモノづくり企業が熱心に街おこしをしている。この「ご縁パワー」は荒川区の街おこしの活性化に役立ちそうだ。出雲の皆さん、沢山の「おもてなし」ありがとうございました。感謝!

< 発行 >

荒川区産業経済部経営支援課産業活性化係
MACCプロジェクト事務局

〒116-8501 東京都荒川区荒川2-2-3
TEL:03-3802-4683 FAX:03-3803-2333

E-mail:macc@city.arakawa.tokyo.jp

URL:http://

sangyo.city.arakawa.tokyo.jp/macc/

登録番号(26)0002号